

カムチャッカ半島沖地震による津波②

■残された堆積物等から考察する津波の様子 七北田川河口



導流堤

(Fig.1 列になって並ぶ堆積物)

7月30日8時24分に発生したカムチャッカ半島沖の地震により、宮城県にも津波が到達した。津波注意報が31日16:30に解除されたため、同日17:30頃から蒲生干潟で津波の痕跡を観察した。Fig.1は七北田川河口左岸である。堆積物が列になって並んでいる。これは、津波が複数回到達したためではないかと考えられる。Fig.2 3は防潮堤脇の通路である。斜面の途中まで堆積物が存在している。これは最大波の到達した高さを示していると考えられる。



(Fig.2 通路の堆積物)



(Fig.3 通路の堆積物)